

組報

真宗 おおだ東

第3号
2014.10.3 発行
発行所
真宗大田東組
組報編集部

もう一つの道も

大田東組 門徒推進員

青木 正三

(大田町 正蔵坊門徒)

先日立ち寄った友人同朋が「仏法は何べん聞いてもわからんが、こうして仏の道であれやこれやと話せることがいいだな。」といつて、ねんごろに話をしました。そのときの「仏法は何べん聞いてもわからん」ということが頭から離れません。私などと違って、聴聞を重ねている同朋ですが、私の思いも似ていて重なるのです。

浅原才市さんは、

寺まいりて すわってをりて

なにきくか……

なにがなにやら わかりやせん

よく機をしらべて きくがよい

と詩い、並ではない聴聞を重ね、

わからずば

わかるまで きけよ

なみあみだぶと なみあぶだぶは

みだのごくらく さいちがごくらく

と詩っています。

しかし、私たちは才市さんのようになれるのか。才市さんの聴聞は並ではありません。毎日のように近くの安楽寺にお参りされ、住職の梅田謙敬師に聞いて聞いて聞きぬかれたといわれています。

このような聴聞が才市さんの求道でした。ここに聴聞のあるべき原点があるかも知れません。思えば、親鸞聖人も法然上人のもとに百日通われたことです。

このように学ばせてもらっても、今の私たちは才市さんのような聴聞は困難です。年に数回の聴聞がやっとというところで、それで仏法がわかり、納得がえられるかと問えば、否です。聴聞を重ねればそのうちわかってくる、納得がえられると、安気になれる現実ではないように思います。

門徒は才市さんのようになれるとは思いませんが、多少とも仏法がわかり、気づきや納得をえて仏の道を歩みたいと思う気もちがあります。今の聴聞の形だけではなく、他の道はないものか。

そう思つてふと気づいたのは、同朋のいった「こうして仏の道であれやこれやと話せるのがいい」、ということに一つの道があるのではないか。聴聞即法要、聴聞即研修という形から離れたあり方で仏の道、門徒の道であれやこれやといい合い、聴き合う。形式ばらずに、テーマなどなくいい、互いに話し、聴きあい、まとめなんかいらぬ懇談です。仏法懇談といつてもいいでしょう。そういう懇談を僧侶、門徒で重ねることです。形にはまった聴聞や研修ではないもう一つの求道の道です。

「仏法は何べん聞いてもわからんがどがしたらいいかな。」「そがだいなあ、わしも何かこれだといつかみどころが持てんぞな。」「親鸞さんはどがなようにいうておられるかな。」「……と、ねんごろに話し、聴き合うのです。このような形は何も新しいことではないと思います。きつと親鸞聖人のもとではねんごろに行われていたことと思います。また既に、組内でも行われている寺があるかもしれません。そのような仏法懇談の様子がこの組報で紹介されるといいと思います。

報恩講の時候となつてきました。寺参りし聴聞しつつ、尚もう一つの道も歩むことができないかと、思うところを書いてみました。

子どものつどい in 本願寺

太田東組キッズサンガ 児童念仏奉仕団

引率者より

2014年児童念仏奉仕団に参加

衆徒 岡崎 隆徳

大田東組キッズサンガ・本願寺児童念仏奉仕団では、8月5日から6日の2日間、バス1台で小学生10名、中学生2名、引率・スタッフ4名が本願寺児童念仏奉仕団に参加しました。

この児童念仏奉仕団は、西本願寺に参拝し、境内の清掃奉仕やレクリエーションを通して、本願寺に親しむとともに、子どもたちに阿弥陀様と親鸞聖人のみ教えに触れていただき、次代をになう宗教情操豊かな少年少女の育成のご縁づくりを目的として、大田東組となつてからは初めての参加となりました。

参加した子供たち、引率者ともに初日午後から2日目午後までの日程で、御影堂の雑巾がけといった清掃奉仕をはじめ、晨朝参拝、書院・飛雲閣を巡るウォークラリー、ゲーム等を通して、大田東組内をはじめ他教区の参加者との親睦、交流を深めるとともに、浄土真宗のみ教えにふれることがで

きました。

2日目午後からは京都市内の観光をおこない、梅小路蒸気機関車館の観覧をはじめ、友禅染の染付技法を用いた団扇の絵付け体験を通して京都の伝統的な工芸文化にふれるなどして、夏休みの思い出に残る大切な時間をすごしました。



一言感想

真浄寺 松浦 英篤

てのひらを合わせる子どもたちの姿に学ばされ、パワー溢れる子どもたちに力をもらえた3日間でした。これを未来に繋げることができるかどうか、今後の私たちお寺に関わる者の取り組みにかかっています！

専勝寺 金盛麻衣子

バスの中で、「本堂に出入りする時は礼をして入りましょう。」と色んな作法のお話をしていましたが、USJの門をくぐる時「間違えておじぎをしてみました！」という子どもの声を聞いて思わず笑いました。3日間、一つ一つ大切な経験をし、その子ども達の姿を見ながら私もまた「続けていこう」というエネルギーをもらいました。

専勝寺 金盛徳照

正座で足が痛いのを我慢しながら、手を合わせてお念仏している子どもたちの姿に教えられることもありました。楽しみながら、一生懸命に過ごす子どもたちの姿に取り組み続けていくことの大切さを知らされました。

※児童念仏奉仕団とは・・・

親鸞聖人のみ教えに学び、本願寺の清掃奉仕やレクリエーション等を通して本願寺に親しむとともに、次代をになう宗教的情操豊かな子ども育成に資することを目的として(本願寺児童念仏奉仕団開催要項より)行われています。大田東組となつては初めての開催でした。



児童念仏奉仕団 『こんなことを感じた』

楽しかったのは「龍の子探検隊」です。理由は西本願寺の敷地内にあるいろんな建物が見れたからです。(中1女子)

しょうじき、足がいたくて、もう終われ、と思いました。(小5男子)

本願寺の中をまわることで、知らないことが分かり、新しい発見ができてうれしかったです。(中1女子)



「龍の子探検隊」で一番印象に残ったのは「がんの間」と「きくの間」の両方を使った一つの絵です。半月の絵が、かさなって、とてもきれいでした。(中1女子)

楽しかったこと1つ目は、「龍の子探検隊」です。答えを考えるのはとてもワクワクするし、分からない事は分かってくるからとても勉強にもなるからとても楽しかったです。やってみたいと思いました。(小4女子)



1時間くらい、ずっとせいざでいた時はとってもくるしかったです。明日のユニバーサルスタジオが楽しみです。(小4女子)

僕が一番驚いたのは、本願寺の広さとスタッフの方々の優しさです。(小6男子)

いつも会っている友達と遊ぶのも楽しいけど、新しい友達と遊ぶのもっと楽しいと感じました。(小5女子)



最初に団体紹介をしました。家で書いてきたげんこうを読みあげ、大役をはたしました。そして、最後におかみそりをうけました。(小6男子)

僕はお寺といったらいる人もすごい真面目だと思っていました。でもスタッフのお兄さんお姉さんのようにみんな明るくてとてもうれしかったです。(小6男子)



うちわに、絵を書くのも、思っていた以上にきれいにできてうれしかったです。(中1女子)

1日目はおきょうをとなくて最後に「なんまんだぶ」の意味を教えてくださいました。次の日もまたお寺に行きました。最初におねんぶつをとなくてそのあと、そうじをしました。スタッフの人がもりあげてくれたのでみんなで楽しくできました。(小5男子)

機関車にも乗れて、めったにできない、いい経験ができて良かったです。(中1女子)



来年もキッズサンガがあったら、参加したいです。この経験を生かしていきたいです。(小5女子)

スタッフの人と別れるときは悲しかったです。来年も行きたいです。(小5男子)

これから礼儀正しくしていき、み仏様を大切にしていきたいと思いました。(小6男子)

各部の取り組みから

大田東組 連続研修会

みのりある連研の終了を迎え

念仏者養成部長 齊藤 寛

昨年7月21日から始まった大田東組としての初めての門徒推進員を養成するための連続研修会も、いよいよ本年9月28日、第12回の最終回のみとなりました。

参加者数22名により毎回、ワンポイント仏事作法を会場寺院の住職よりご指導いただき、その後、毎回異なった問いを、毎回異なる、講師により課題提起をしていただき法座に臨みました。

法座の進行及び記録と発表を門徒推進員が担い、参加者数に応じ、主に3班に別れて行いました。終了後、班別に記録発表者によって、参加者の課題の問いについて今の思いを、率直に語られた言葉を発表します。そして講師により「課題の問いなおし」として「まとめ」の法話をいただきます。

この地方連研の修了者は、本願寺において開催される中央教修に参加が出来ます。そして中央教修了者は門徒推進員の資格を得ることが出来ます。全国から集まられた方々との同宿による感動深い本願寺にお

いての中央教修に、是非とも多くの方に参加いただくことを期待しています。

この連続研修は12回の開催をもって終わらせるわけにはいきません。反省に反省を重ね、大田東組の二期目の連研は更により良い開催が出来るよう、今からその視点を持って準備をしたいと思うところです。

社会部会

「平和と人権のつどい」から

社会部部长 菅原 憲

去る8月1日、大田東組社会部主催「平和と人権のつどい」にフリージャーナリストの花田真司さんを迎え「マスコミは、真実」を伝えていくか！」と現場から見る報道の本当とウソ々というテーマでお話をいただきました。最初に花田さんご自身が福島原発の事故以降、福島取材を続け、それを映像化した「福島リポート」を上映後、最近ではマスコミにも取り上げられなくなった福島の実状・実態をお話いただきました。記憶に新しい「美味しんぼ」の鼻血描写をめぐる事件。マスコミは、「風評被害」と騒ぎ立てました。しかし作者は何年にもわたり「福島の食」というテーマで食というフィルターを通して原発事故について考え、このような世界をどう生きていくかと訴えていたのです。政府は、「た

だちに健康への影響はない」といい続けました。しかし福島県では2011年以後甲状腺ガンにかかった子どもが今年6月時点で疑い例も含めて80人近くにのぼるそうです。なお国立がんセンターの資料によりますと、2008年に18才未満の福島県民で小児甲状腺がんになった人はゼロ人であったということ。風評被害などではなく、実害そのものだったのです。また昨年の夏、ある漫画の単行本をめぐって大きな問題が起りました。「はだしのゲン」です。戦争の描写があまりに過激であるという判断で当時の松江市教育委員会教育長が校長会に対し「はだしのゲン」の閲覧を制限しなさいと通達した事件です。市議会にこの閲覧制限を陳情したのは、市民と報道されましたが、実態は東京の新大久保や大阪の鶴橋などで「ヘイトスピーチ（憎悪発言）」を繰り返している「在日特権を許さない市民の会」という極右団体の人でした。教育委員会に対して執拗に圧力をかけ、学校の図書館から漫画を排除しようと試みたのが真相でありました。いかにも日本人が韓国や中国に嫌悪感を抱くような偏った報道をしていることなど、私たちが新聞やテレビでは見聞きしないことをお話いただきました。いずれにせよ、私たちがとって自らを守っていくためには、特定のテレビ・新聞に頼らず、自らが情報を見極める目や耳や肌感覚を身に着けることが大事であると最後に花田さんは締めくくられました。

寺族婦人会

会長 小笠原峰子

29ヶ寺の加盟によりスタートした大田東組寺族婦人会の活動は、年2回の研修会。親睦を深め各寺院の現状を理解する為に会場持ち回りで、ご講師も会所寺院の御住職に依頼、各々の得意分野をお話し頂いています。

そして、年末の「眺峰園仏具磨き奉仕その後の昼食懇親会」（旧石東組引き継ぎ事業）です。兼業坊守が多いことや、地域が広いことなどの諸事情から、参加者は10、15名と低調気味。この現状は寺婦に限らず、組内諸活動全般における傾向では、と危機感を覚える。

先日9月9日から2泊3日の教区寺婦研修旅行が企画され、総勢23名の一員として仙台別院集合で参加。感慨深く有意義な3日間を過ごさせて頂いた。別院御輪番による災害発生から今日に至る迄の経過と活動の報告、被災地視察とりわけ大川小学校での勤行は終日同行のバスガイドさんの心にも響いた様子。また、気仙沼の酒屋のお女将の話（曹洞宗ながらご縁あって、今年9月より本願寺派中央仏教学院通信教育入学の決意表明もされた）南三陸ホテルの語り部バスなど、終始耳を傾ける毎日でした。お店一つにしても名ばかりのプレハブ造りで品数も少なく、未だ復興進まぬ現状に心が痛みましたが、出会った人は皆頑張っておられたのが印象深く記憶に残りました。

仏教婦人会

60周年記念大会に参加して

仏婦委員長 下迫千歳

大田東組になり、3年目の今年、6月26日、山陰教区仏教婦人会60周年記念大会・総会・研修会が大田市民会館で行われ、教区内から734名、大田東組からは約110名の会員の参加がありました。仏教婦人会連盟講師の田中信勝先生から「伝えよう、念仏のよろこびを」と題して講話があり「仏婦」の現在のありようは、地域婦人会がなくなっていく中で、地域共同体として、活動をささえている心は何なのか。群れたい、寄り添い寄り添われたいとの気持ちなのか。「仏婦」活動の源泉は、組織を運営するための会員なのか、と厳しく批判されました。私は今まで「仏婦」として、聴聞やお寺の行事の台所のお斎づくりのお手伝いをしてきました。この批判は痛く私の胸をつきました。いつさいのものが幸せであれば、如来様の心に届くこと、「あなたが幸せでなければ、私は幸せになれません」とお話になりました。「本願念仏の教え」つまり、「慈悲の心」を仏婦会員が社会に広く伝えていけるようにするのが僧侶の役割ではないだろうか。と私は、所属寺でこの話をたびたび聞いていました。私自身、住職の期待に込められているのか、とても胸を突かれる想いでした。「仏婦」綱領の中にある「真実を求めて生きぬかれた親鸞聖人のみあと

をした」と「真実とは、如来さまの生き方、つまり苦難は私が引き受けますから「仏婦」会員は、こころ豊かに生きてください。人間としてまことの生き方を、とお説きになったのです。かつて、田中先生が「めぐみ」に書かれた文の一説を組「仏婦」委員長の私が胸に刻むため最後に紹介させて頂きます。

さあ 歩き始めましょう
少しでも人の悲しみに寄り添いながら
わずかでも人の喜びを受けとめながら
それはとても拙い歩みだけれども

【書籍紹介】

20数年にわたり、正蔵坊前住職が門前の掲示板にかけてきた言葉とそれに思いを重ねたエッセイ集（掲示伝道39編・頒価700円）が、このたび正蔵坊仏教婦人「灯炬の会」より発刊されました。

照会先：大田町正蔵坊 電話&FAX 0854-82-1463
E-mail: ryuken5@world.ocn.ne.jp

● 仏教講演会のお知らせ ●

講題：「凡夫という名をいただいて」

講師：和多田禎哉 師（雲南市 宗専寺住職）

会場：大田町 常見寺

どなたでも聴聞できます。お誘いあわせておいでください。

主催 大田東組門徒推進員協議会

平成26年
12月6日(土)
14:45~16:30



えん まん じ 寺

(久利町市原)

開基：元禄年間 釋教傳法師
現在願林寺住職が代務



じょう げん じ 寺

(久利町行恒)

開基：釋了海
現在の住職は第22世

組内
お寺めぐり

久利町6つの寺院を紹介します。
※次号は長久、久手、鳥井です。



さい ぜん じ 寺

(久利町畑ケ中)

開基：寛文2年(1662) 釋知幸
現在の住職は第18世



せん とく じ 寺 (久利町小山)

大永2年(1552)真言の寺から浄土真宗に転派
開基：願空
現在の住職は第19世

本願寺の法統継承にあたって
「本日、平成26年6月5日をもって、私は本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主を退任し、後を本願寺嗣法・新門に託すことにいたしました。」と前門様のお言葉。昭和52年4月1日から、37年2か月後、龍谷山本願寺法統の灯は、釋即如ご門主から、第25代釋專如 新ご門主へと引き継がれました。



ねん がん じ 寺

(久利町松代)

開基：江戸時代末期
現在の住職は第11世



しん ぎょう じ 寺

(久利町赤波)

文政元年(1818) 釋念道
現在の住職は第6世

2014年 報恩講のご案内

寺院名	日 時	講 師 名
川 合 地 区		
浄教寺	11月21日(金) 13:00～	菅原 俊軌 師 (富山町 高林寺)
善性寺	10月29日(水) 13:00～ 30日(木) 7:00～ " 13:00～	菅 和順 師 (浜田市 光現寺)
妙覚寺	11月23日(日) 13:30～	菅 秀範 師 (川合町 善性寺)
蓮乗寺	11月16日(日) 13:30～	未 定
眞光寺	11月 1日(土) 13:00～	岩根 了達 師 (久利町 浄賢寺)
善林寺	11月 7日(金) 13:00～	菅原 憲香 師 (大田町 正蔵坊)
久 利 地 区		
浄賢寺	11月15日(土) 13:00～	菅 秀範 師 (川合町 善性寺)
圓滿寺	11月 2日(日) 13:00～	窪田 英俊 師 (温泉津町 願林寺)
信楽寺	11月27日(木) 13:00～	菅原 昭生 師 (温泉津町 西楽寺)
西善寺	12月10日(水) 13:00～	菅原 龍憲 師 (大田町 正蔵坊)
専徳寺	11月30日(日) 13:00～ 12月 1日(月) 12:45～	山本 真文 師 (江津市 円勝寺)
念願寺	11月18日(火) 13:00～	岡田 哲水 師 (美郷町 西念寺)
長 久 地 区		
蓮教寺	11月 1日(土) 13:00～	岡田 哲水 師 (美郷町 西念寺)
浄土寺	11月10日(月) 13:00～ 11日(火) 13:00～	佐々木かおり 師 (益田市 明顕寺)
正願寺	11月12日(水) 13:00～	波北 顕 師 (江津市 光善寺)
久 手 地 区		
松林寺	11月 1日(土) 13:00～	荒本 由未 師 (大代町 西臨寺)
極楽寺	11月23日(日) 13:00～	荒本 由未 師 (大代町 西臨寺)
正専寺	11月 5日(水) 13:00～ 6日(木) 13:00～	未 定
鳥 井 地 区		
設我寺	10月 9日(木) 11:00～	菅原 俊軌 師 (富山町 高林寺)
法専寺	10月17日(金) 13:00～ 18日(土) 13:00～	藤谷 崇文 師 (温泉津町 願楽寺)

寺院名	日 時	講 師 名
大 田 地 区		
西楽寺	11月 4日(火) 13:00～ 5日(水) 13:00～	朝枝 弘照 師 (邑南町 西善寺)
正蔵坊	11月28日(金) 13:00～ 29日(土) 13:00～	前田 賢龍 師 (益田市 専龍寺)
常見寺	11月23日(日) 13:00～ " 19:30～ 24日(月) 13:00～	楠 淳證 師 (龍谷大学教授)
真浄寺	11月 9日(日) 13:00～ " 19:30～ 10日(月) 13:00～	坂原 英見 師 (三次市 東光坊)
明善寺	12月 5日(金) 13:00～ 6日(土) 13:00～	荒本 由未 師 (大代町 西臨寺)
三 瓶 地 区		
専勝寺	11月 3日(月) 13:00～	小滝 信生 師 (京 都 市)
西教寺	11月 4日(火) 13:00～	小笠原宣隆 師 (邑南町 西福寺)
宗正寺	11月19日(水) 13:00～	岡本 広樹 師 (桜江町 長玄寺)
禮善寺	11月 9日(日) 13:00～	未 定 ～ともしび法座～
照善寺	11月20日(木) 13:00～	荒本 由未 師 (大代町 西臨寺)
浄善寺	11月16日(日) 13:00～ 17日(月) 13:00～	鎌田 宗雲 師 (中央仏教学院講師)
徳善寺	11月13日(木) 13:00～	三明 慶輝 師 (温泉津町 瑞泉寺)
波 根 地 区		
大恩寺	10月21日(火) 13:00～	原田 光生 師 (大代町 浄土寺)
立善寺	11月21日(金) 13:00～ 22日(土) 13:00～	松林 茂 師 (桜江町 福泉寺)
富 山 地 区		
専念寺	11月 3日(月) 13:00～	清胤 弘英 師 (広島県 正覚寺)
福泉寺	11月13日(木) 13:00～	三明 浄信 師 (温泉津町 照善坊)
高林寺	10月26日(日) 13:00～	高野 顕信 師 (松江市 西宗寺)

報恩講(ほうおんこう)とは、親鸞聖人のご命日に
あたって、そのご恩を報謝する法要です。

**皆さま 誘い合わせて
お詣りください**

吾亦紅

倒見の凡夫

お盆になると人びとはそれぞれの田舎に帰って、墓参りをし、同窓生や仲間と旧交を深めます。盆と正月は人間をふるさとへと動かす磁力があります。

孟蘭盆会の原語は古いインドのことばで「倒見」：物事を逆さまに見てしまう凡夫の性のことを行います。わたし達は間違えることなどないとは思わないにせよ、誰も日常生活を逆さまに見ているとは思いません。

お盆はわたし達に数えきれない人のご恩や情け、ご縁のつながりを思い我が身のご恩のすがたに気づかせてもらおう時節でもあります。

先ごろ原発事故の吉田調書が公開され、緊急の現場に嘴をはさむ凄まじい権力の暗闘、「倒見の凡夫」のありさまがそこにあります。

伝えたい事柄はことばを重ねても思いがけない誤解を招くことがあります。たった一つの映像がより多くの人に正しく伝わることもありま

す。ことばも疑いの眼差しも我が身の映し絵であり怖いほど人柄が出ます。残念なことですが、分家には仏壇を置かない慣習があります。仏壇の前に座る習慣やナムンダブと念仏するすがたが見えないことは、孫子のうえに仏の智慧と慈悲が届いてい

(淳)

文芸コーナー

俳句

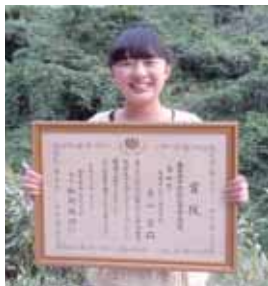
専勝寺 門徒 大国千登世

母逝きぬ 白寿の春を 待たづして

秋灯火 心ゆくまで お念佛

作文

徳善寺門徒 森山 愛さん



本年7月、国土交通省が行う「全日本中学生水の作文コンクール」において、全国19、419編の応募作品の中から優秀賞8点に選ばれ、

全日本中学校長会会長賞を受賞。作品は、水をはぐくむ森林やそれを守る人々への感謝の気持ちを感性豊かな表現力で綴り、「……今年も我が家の田植えが終わった。これからもずっとおいしいお米ができるよう大切な山水を守っていききたい。」と締めくくる『我が家自慢のお米の秘密』。副賞として、国交省出雲河川事務所の一仕事所長も務めた。

にゅーふえいす紹介



佐賀県より参りました金盛徳照です。縁あって本年、三瓶町上山の専勝寺の

麻衣子さんと結婚いたしました。二人で支えあって、温かい家庭を築きつつ地域の皆様とも協力していききたいと思えます。私たちは中央実習という研修講師を養成する本山の研修で知り合いましたので、連研に関わり組内に一人でも多くの門徒推進員が増えますように勧めたいです。また、今までお寺に縁のなかつた皆さまに少しでもお寺と縁を結んでいただけるよう、組活動をはじめ、特別法務員や布教使の資格を活かした活動に取り組みたいです。よろしくお願ひします。

編集後記

▼第3号をおとどけます。巻頭を正蔵坊門徒の青木さんにお願ひしました。ご熟

読下さい▼子ども達がお仏前で合掌をしている姿を見ると、なぜかほっとしますね。思わずこの子達の未来が安穩でありますようにとねがってしまいます。それと同時に（合掌する子がたくさん増えれば、金さえあればとか人を人とも思わぬ世の中にはならないだろうな）と思えます。青少年部会の子ども達が楽しい感想文を寄せてくれました▼小学生の孫から「お浄土ってなんだ？ゴクラクのことか？」と聞かれました。皆さん小学生に判るよう説明してみてください。では、さようなら。ご機嫌よう

(門徒・朗)